

NSF、米国大学における博士号取得者に関する年次調査報告書を発表（12月5日）

米国科学財団（National Science Foundation：NSF）は12月5日、2011年に米国大学において博士号を取得した学生に関する年次調査報告書「2011年版米国大学における博士号取得者（Doctorate Recipients from U.S. Universities：2011）」を発表した。

本報告書によると、米国大学で2011年に博士号を取得した学生数は4万9,010人で、2010年から2%増加しており、また、2011年の博士号取得者全体の約4分の3が科学工学分野の専攻者で、この割合は前年比で4%増加した。

一方で、2011年の人文科学分野での博士号取得者数は、前年比で3%減少したが、この減少は、教育学博士号の分類が専門学位に変更されたことに起因したもので、この変更がなければ2011年の博士号取得者総数は5万人を超えていたという。

長期的な変化を見ると、女性の博士号取得者数は継続的に増加しており、科学工学分野での博士号取得者全体に占める女性の割合は、1991年の30%から2011年には42%にまで増加している。

また、人種・民族別で見ると、黒人学生の博士号取得者数が博士号取得者全体に占める割合は同4%から6%に、ヒスパニック系学生の博士号取得者数が博士号取得者全体に占める割合は同3%から6%に、それぞれ増加している。

なお、学位取得後の就職状況は厳しく、人文科学分野での博士号取得者のうち、学位取得後に就職先またはポスト所属先が決定していない学生は、2006年には全体の33%であったが、2011年には43%に上昇している。

なお、本報告書は、

<<http://www.nsf.gov/statistics/sed/digest/2011/nsf13301.pdf>>からダウンロード可能。

The Chronicle, Doctoral Degrees Rose in 2011, but Career Options Weren't So Rosy
<http://chronicle.com/article/article-content/136133/>